

## 入賞

浦江奏子 [東京都/13歳]      テーマ「大切な人」

祖父は六月二十日に仏様になりました。私のいる東京に、祖母と一緒に何度もよく遊びに来てくれたおじいちゃんです。私が生まれた時も富山から一人で駆け付けてくれました。大好きな大好きな大切な人でした。祖父は肺がんが見つかり手術を受けましたが、その後祖父の体はどんどん弱っていきました。私は祖父が亡くなってしまうのではないかと思うと不安でたまりませんでした。「これからもいっぱいおしゃべりをして、一緒に温泉にも行こうね。だから、頑張る。」と何度も励ましました。祖父は優しく笑いながらも少し苦しそうな声で「親鸞聖人のおられるお浄土へ行けるから大丈夫だよ。」と言いました。自分の体を支えるのも精一杯な状態でも、優しい顔で何も恐れてはいない様に見えました。私には「お浄土」がどんなところか分かりませんでした。でも祖父の穏やかな表情に少し安心しました。祖父が亡くなってしばらくすると、祖母は本願寺から小さなお仏壇を頂いて私の家に持ってきてくれました。そして「おじいちゃんはお浄土になられてお浄土にいらっしゃるよ。南無阿弥陀仏。カナちゃんも合掌してね。」と「仏説阿弥陀経」という本と一緒に置いていってくれました。今、私は毎日お仏壇に手を合わせ、遠くのお浄土にいる祖父を近くに感じることができています。極楽浄土は浄らかでとても美しいところです。このようなところへ祖父は行ったのかと思うと少しうらやましい気持ちにもなります。親鸞様にみちびかれ、祖父はお浄土の無量の光につつまれて、私を見てくれています。祖母のことも、私の姉も、両親も、家族ではない人たちのことも見えています。祖父が仏様になられたことで私はお浄土について知ることができました。知れたことによって祖父の言っていたこともよく分かったし、私も安心することができました。祖父は最後まで私にたくさんのお話を教えてくれたとても大切な人です。